

クマったもんだ

株式会社榎戸木材店
会長 榎戸正人

11月の中旬頃になれば熊は冬眠すると言うのが常識でしたが、この冬は12月になっても年を越しても人里に現れて被害者が続出するという異例の事態です。冬眠しない熊について専門家は山にドングリなどの餌が無ければ冬眠できずに人里に出没することはあり得る、当然の出来事だと述べています。

そもそも熊の冬眠はリスなどと異なり眠りが浅く、リスは体温が5度くらいまで下がり、心拍数も仮死状態のように少なくなるのに比べ、熊は体温を30～35度に維持し心拍数も通常より多少減る程度で、冬眠と言うより仮眠に近いのだそうです。

チョッとした物音でも目を覚まし、巣に近づいたシカの足音で起きて襲って食い殺す例もあるとか……腹いっぱい寝ていれば、シカの足音がしても「シカト」してくれるのでしょうが。

そんな熊が人里に現れれば襲われて死者が出るのも十分あり得ることです。昨年の秋は木の実が極端に不作だったため、通常ならお腹いっぱい食べて体重を3割、5割増やして冬眠するのですが、ハラペコですから人里に降りて来て柿を見つけて大喜びし、民家のゴミ置き場や収穫した農作物の入った倉庫を物色し、飼われているニワトリや時には飼い犬まで犠牲になる始末です。

これから食べる目的で人を襲うわけではなく、敵とみなして襲い掛かるようですが、いずれにしても日常のように出歩くのは危険です。とは言っても、散歩を控えるのは当然としても、新聞配達やニワトリの世話を控えるわけにはいきません。居酒屋、食堂など、客足が途絶えた夜の商店街が可哀そうですね……出前も危険だし。

人里に出没する熊は慣れ過ぎていて、自動車のヘッドライトを向けてもクラクションを鳴らしても、全く逃げずに平気でエサを食べている……こうなるとクマよけの鈴など役に立つかと不安になります。こうしていれば大丈夫と過信するのは危険です。

一日中、夜中でも山をうろつく熊に恐れをなして山姥まで逃げ出し、人里の金物屋で包丁ときのアルバイトをする始末で、どちらが怖いのかとは思いますが、そもそも熊のプーさんだとか熊本県のマスコットのくまモンだとか、クマさんはカワイイというイメージを持たせたのが悪い。プーさんもくまモンも肩身の狭い思いをしているでしょうが、落語でも熊さんはよく出て来る登場人物なので、落語家も熊さんの代わりにパンダさんで演じなくてはなりません。

そんな中、私の住む千葉県は本州で唯一、熊がいない県とされていて、ハイキングやキャンプの客は千葉に集中。どこのキャンプ場やBBQガーデンも予約でいっぱいだそうです。熊出没の恩恵を受けるのは中国人インバウンド旅行者の恩恵を受けるより非難を浴びそうですが……

そんな千葉県は野生動物の害とは無縁かと言うと、そうでもありません。別の動物の被害に頭を痛めています。来月の話題はその話ですが、熊などの写真を撮るために山に入ろうとは思わないでの、今月、来月は写真無し、文章だけで失礼をいたします。まさかクマのぬいぐるみの写真を載せるわけにもいかないです。